

哲也

○インコースめがけ夜涼のストレート
帆柱の物見に独り南吹く
鰻鮓食めば炙りの匂ひあり

○継接ぎの心模様や南風吹く
産卵の後の空腹鯰かな

向日葵の背の一尺が並びけり

えり



保子

文子

○大鯰盟の中で薄笑い
○法螺貝吹く郵便屋さん南風
背に蛭男は家を尋ねくる

守宮出で今年も来たと一人言
時鳥子守歌にし朝寝する

紫陽花や友は可愛い嘘をつく

志津子

つゆさなかめんきょへんのうカップキテ
つゆさい中のこった品でゆうげはな
つゆあけてうでまくりあげうりあるく

味元 昭次 作品

農子

○草刈りの頬へ背へと南風
焼鮎の残るは背骨漢の皿
「古古古米」光る早苗のみどりかな

鰻飯旨さを知らず母は逝き
咲き時を自ら決めて蓮ひらく

自転車で稲穂見つけペダル止め

富子

図書館で鯰の研究する少女
青空に手を挙ぐクレイン大南風
若鮎が飛ぶ梅雨晴の光へと

初江

○シャンプーの匂い流るる梅雨の路地
○評判の鰻屋店主いごっそう
○守宮出た蛇出た南風吹いた

○黒南風の海を汽笛の重低音
交替に竿持つ姉妹鮎の川

ワゴン車の運ぶ献体南風

千代

★次回市民句会

【開催日時】

令和七年七月二十三日（水）

午後一時十五分～午後四時（予定）

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます

郁子（土）

宙に舞ふ竿さばき美し鮎の川
逝く友と施設の友よ著莪の雨
出し抜けにとび出ごきぶり難のがれ

郁子（岡）

○南風受けてビーチバレーの若い足
草むらに続く足跡鮎解禁
蒼天に泰山木の花香る

酔花

○絵はがきにゆったり乗ってきた鯰
○いんぎんに答弁してる鯰のヒゲ
呟きを大事にして梅雨最中

綾子

○大南風貝殻海を語りだす
境内は海の中なり夏木立
シャッターの開き線香の香梅雨最中

